

ミッション2030

私たち聖イグナチオ教会は、祈りにもとづく使徒的共同体を生きていきます。

現代の社会は、命の軽視や孤独、過度の競争原理や格差、環境破壊など、未来に希望を見いだしにくい反福音的なものに脅かされています。それに対して、私たちは自分たちの殻に閉じこもることなく、いつくしみの扉を開いていきます。

私たちは、同伴者イエス・キリストと心を合わせて、貧しい人や弱い人の声を聴き、皆でともに手をたずさえて（日本人も外国人も、老いも若きも）、福音の喜びを分かち合っていく使命を生きていきます。

このミッションを実現する4つの柱

1. 祈りを深める : 自らの召命をしっかりと受けとめ、信仰と生活を統合し、キリストの使徒として生きるため、神との生きた交わりを深め、霊的養成（聖イグナチオの霊操に基づいて）を心がける。
2. 福音を伝える : 社会全体の福音化をめざして、どんなところ（教会・職場・家庭など）においても、共同体として、また個人として、仕える心で、与えられた使命を果たしていく。
3. 共同体を生きる : この教会が誰にとっても「わが家」であると思えるように、どんな人も迎え入れ、互いに支え合いながら、つながりを大切にしていく。
4. 新しい協働 : 以上を実現していくために、信徒がより主体的になり、司祭、修道者とよりいっそう協力できる体制を構築していく。
さらに、イエズス会の教会としてのアイデンティティを保ち、東京教区の一員として連携していく。

今後の進め方

*2016年から2030年まで、このミッションを実践していくように心がける。

1. 教会全体として、ミッション2030を意識し、4本柱のテーマを実践していけるように、1年に1つずつ重点をおいて、キャンペーンや行事を行っていく。
2017年：祈り、2018年：宣教、2019年：共同体、2020年：きょうどう
2. 宣教司牧評議会のもとに、4本柱を実行していくために、ミッション促進チームを発足させる。4本柱に対応して、4つのグループに分け、それぞれが計画・立案していく。このチームは、アクション・プランの立ち上げと、当初の活動に責任をもつ。宣教司牧評議会がそれを見直し、評価していく（9月の宣教司牧評議会を軸にして）。

2016年9月

アクション・プランA.P. (参考資料として)

1. 祈りを深める

AP1-1 : まずは一人ひとりの霊的刷新から。自分の召命を意識し、自分の使命を見いだすこと。そのために、何かしら1年間の霊的ふりかえりの計画を立案・実施。

個人レベルにおいて、何らかの促進・刺激を与える。例えば、個人的なふりかえりのワークシートを作ることか。

AP1-2 : 各活動グループもミッション2030からふりかえりの機会をもつ。各グループが刷新されるように。5年、10年後を意識して、場合によっては活性化のために何かを変えていくことも。例えば、活連などを通して呼びかけ。

AP1-3 : ミッション2030を実現する一歩として、実際に祈る機会を作る刺激と工夫。さまざまなキャンペーンを張る。日曜日のミサに出よう運動。朝晩の祈りをしよう運動など。

AP1-4 : 典礼の見直しと工夫を重ねていく。
例えば、葬儀の見直し、主日のミサの時間変更など

AP1-5 : 共同体で祈る機会をこれからも作っていく。
例えば、聖体礼拝、ラビリンスウォーク、十字架の道行き、ロザリオ

2. 福音を伝える

AP2-1 : 新しく来る人を迎え入れる体制(1)。
インターネットでの迎え入れの充実。HP、フェイスブックなど。

AP2-2 : 新しく来る人を迎え入れる体制(2)。
教会案内(コンシェルジュ)を常駐して、いつでも誰でも迎え入れるように。

AP2-3 : 信徒による入門講座開設の準備を始める。
東京教区(古川氏が参加)、上智大学と連携しながら。

AP2-4 : 信仰に基づく正義の促進やエコロジーについての学習会や活動の充実。

AP2-5 : 2020年東京オリンピック大会の歓迎体制を検討する。

AP2-6 : 防災委員会の再開。東京直下型の大震災が起きたときの、教会の対応を検討しておく。防災訓練から次の段階として。

AP2-7 : 今、困っている人を助ける具体的な活動をいつでも始められるように、応援していく。

3. 共同体を生きる

AP3-1 : 洗礼を受けた人の後追い調査。

受洗後、教会に定期的に来ない人の原因を調査して、改善点を探していく

AP3-2 : 既存の行事を、共同体的なつながりづくりに活かしていく工夫。

例えば、教会祭で名札をつけてみる。あいさつ運動をする。

さまざまな行事のフォローアップを考えてみる。

AP3-3 : 小共同体づくり。多くの人に多様な居場所を作っていく工夫。

AP3-4 : 高齢化社会への対応。高齢信徒のケアと葬儀のあり方を見直す。

現在の病者への聖体奉仕、訪問グループなど。葬儀に信徒がかかわる。

AP3-5 : 青少年の活動の活発化の工夫。

WYD へ派遣、ボランティア派遣、イグナチオユースデイを始めるなど。

AP3-6 : 弱い立場にある人に対する合理的配慮（障害者差別解消法に基づく）を心がける。

例えば、聴覚障害者のために、UDトークを導入する。

4. 新しいきょうどう

AP4-1 : きょうどう委員会を設置。司祭減少に対して、信徒の役割の拡大をしっかりと腰

を据えて考え、計画を練る。将来的には、教会組織の見直しまで。

AP4-2 : 東京教区との連携。

さまざまな委員会への参加など。

AP4-3 : イエズス会の教会としてアイデンティティ。イエズス会のミッションを

共有していく。